

# PHD LETTER

## 108

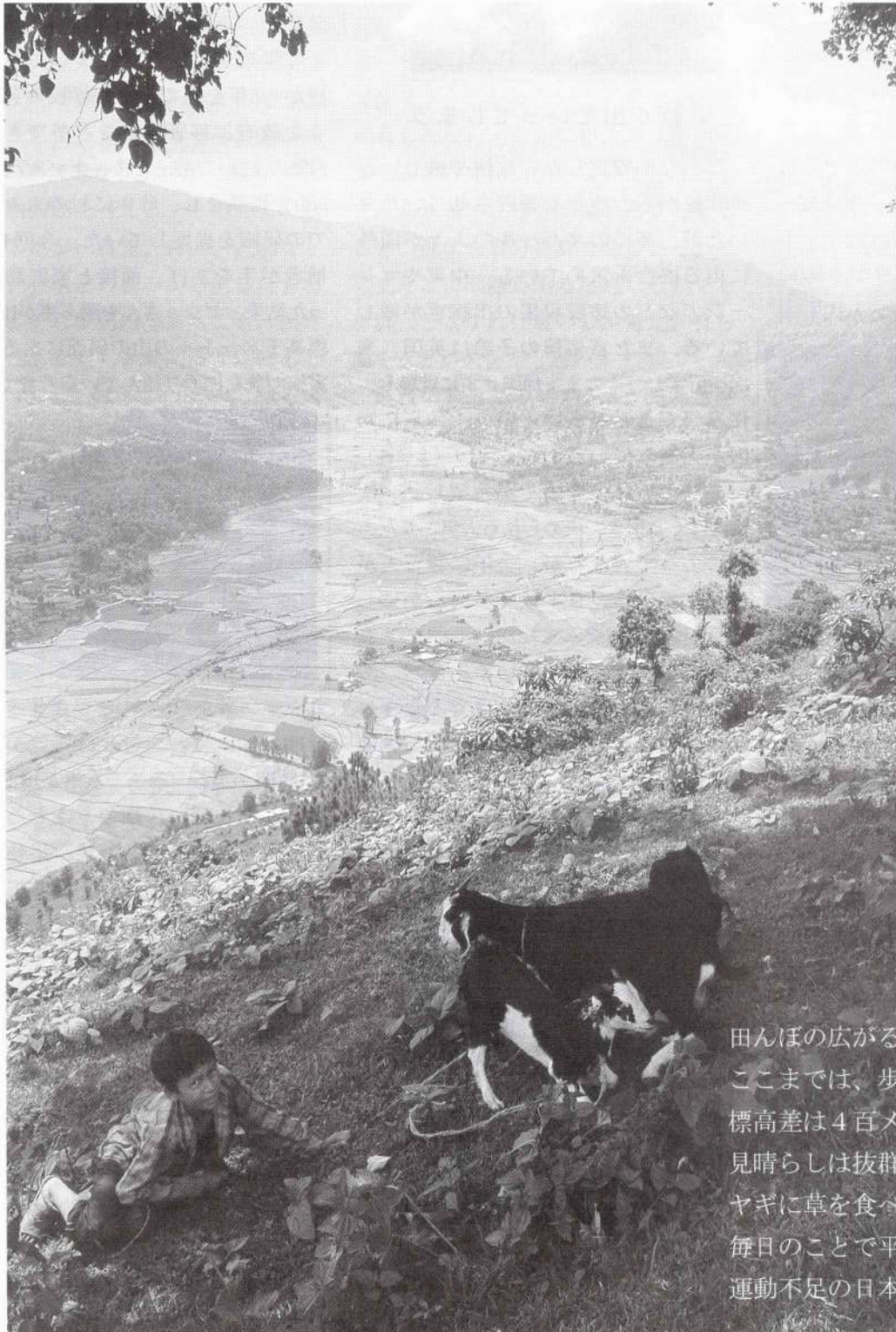
2008.9

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

- 国内問題を考える勉強会in釜ヶ崎 報告
- 研修生レポート
- 同じ買うなら、使うなら「パン工房 くらんぼん」

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄  
編集人：藤野 達也  
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3  
元町アーバンライフ202  
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867  
E-mail: phd@mb1.kisweb.ne.jp  
URL: <http://www.kisweb.ne.jp/phd>  
定価：100円  
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
01110-6-29688



田んぼの広がるところから  
ここまでは、歩いて小1時間。  
標高差は4百メートル、  
見晴らしは抜群。  
ヤギに草を食べさせる仕事のボクには  
毎日のことで平気だけれど、  
運動不足の日本人にはこたえる山道。



### 東西南北 問題解決 取組日記

#### ネパールでもガソリン値上げ

帰国研修生のフォローアップと来年の研修生の選考を兼ねたスタディツアーで7月下旬にネパールを訪ねた。

日本でもガソリンの値上げが問題となっているが、ここネパールはそれ以上だ。1ヶ月半前に1リットル88ルピー（1ルピー=1.6円）だったものが、この時期は100.5ルピー。都市部の1日の最低賃金、350ルピーから計算すると、1リットルが日本の感覚の2000円ほどに当たると思えばその高さがわかる。加えて、量の不足も深刻で1回の給油は12リットルに制限され、ガソリンスタンドの前は長蛇の列。このためタクシー代も大

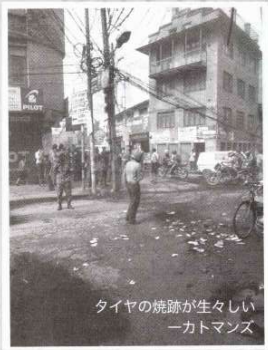


きく値上げされ、これまでの倍近く請求される。どうしてもガソリンが必要な人は倍の値段で、闇で手に入れるしかなく、転売目的に給油をする人もいるという。

#### おちつかない政情

一方で7月はじめに政府、バス組合、学生の組織で合意のあったバス代の45%学生割引をバス組合が認めないことから、学生の道路封鎖による運行妨害が起こっていた。そこに新しく就任した副大統領の演説がネパール語でなく、隣国インドの言葉であるヒンディー語で行われたことへの抗議が重なり、学生の示威行動が過熱していた。大きな交差点で古タイヤを焼き、通れない状態になり、警察が出動し、ものものしい雰囲気。新しい政治体制となり、今までの混乱から復興していこうという

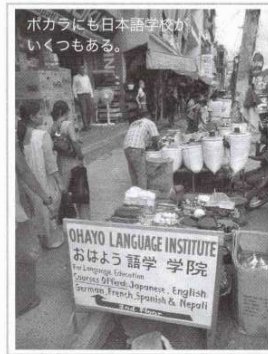
矢先にこの状況。道は険しい。



タイヤの焼跡が生々しい  
-カトマンズ

#### 人材が出ていってしまう

なかなか安定しない政情や厳しい経済状態から、昨年も報告させていただいたが、多くのネパールの人々が国外に出る機会を求めている。中東やマレーシアなどの建設現場の出稼ぎが増している。また富裕層の子弟は英国、米国へ留学し、そのまま帰国せずに就職し、住みつくことが多いという。さらに米国が実施しているdiversity（多様性）visa枠での移住を多くが希望し、一次選考はくじ引きで決められる人気ぶりだ。年によって異なるが、一年に数百人が選ばれている。日本政府が明らかにした海外労働力の受入拡大にネパールの人々も多くの期待を寄せている。今回の滞在中、何人もの人に、日本での働き口について心当たりがないか質問を受けることがあった。



#### 村をよくしよう

そんな中、2009年に12年ぶりにネパールからの研修生を迎えることになり、

選考を行った。第1期生（82～83年）パト・ビスタさんは、出身地でサマ・セウ・セムハ（社会奉仕の会:SSS）という組織を作り、保健衛生・医療・給水・教育・農林業などを通じ、住民の生活改善に取り組んできた。活動地域は首都のカトマンズから北東に数十キロメートル、カブレとシンドゥバルチョークにまたがる地域である。中でもタマンカーストの人々が住むガハテ村には、PHD協会と協力関係にある「篠山ナマステ会」の皆さんが、2000年からSSSを通じて学校建設を行い支援してきた。開校から5年を経て、その学校の運営の多くを政府に移管することができ、次の段階の支援の方法として、ナマステ会・SSS・PHDで相談をし、昨年に村の人々に日本での研修を提案していた。今回4人の候補者が手をあげ、面接と家庭訪問を行った結果、ピシヨさんを選ぶ事が出来た。標高千メートルの山の斜面にある村で、家族で農業に取り組んでいる若者である。



村をまわって話を聞いた

カトマンズからSSSの事務所までは車で1時間かかる。ガハテ村へはそこから歩いて1時間かかる。そこで水田と畑で水牛・牛・ヤギを飼い、畑でとうもろこし、唐辛子を始めとする野菜、果物を栽培している。農業の改善を通じて、村の生活を向上させていきたいと志望動機を聞かせてもらった。

ネパールを出ることを望む人々が増える一方で、自分達の住む村をよくしようという意欲を持つ青年もいる。第1期生ビスタさんから第27期生につながる歴史を改めて振り返り、その間、多くの研修生を受け入れていただいている篠山の皆さんの支援に感謝するとともに、彼と彼の背後にいる村人の気持ちに込める充実した研修を用意していきたいと思う。

総主事代行 藤野達也

## 国内問題を考える勉強会in釜ヶ崎 2008年夏



旅路の里の前で

7月25日から3日間、大阪市西成区にある釜ヶ崎で国内問題を考える勉強会を行いました。定員をこえる希望があり15名の参加となりました。

「国内問題を考える」と題しての勉強会でしたが、格差、貧困、差別などどれも社会構造の歪みから生じたものであり、それが国内であっても、国外であっても私たちと無関係では決まってしまうように思います。「困っている人がいれば手をさしのべる」のが協力であれば、その日の仕事があるのかどうか分からない、家族がそばにいない、今晚寝るところがない、誰にも看取ら

れずに死ぬかもしれない人がいるのであれば、何か私たちにできることをする、それは「共に生きる」一歩になるのではないかと思います。共に生きる社会の実現は簡単ではなく、釜ヶ崎にモノ、カネを送るだけでは根本的な問題の解決にはなりません。釜ヶ崎という地名が一人歩き、「暴動のある怖い場所」というイメージがあるかもしれません。

実際そうかもしれないし、そうでないかもしれない。しかし他人の目を通して見るだけでは分からないことはたくさんあります。自分が関わろうとするとき、現状を自分自身で見ることで、そしてそこに問題があると感じるのであれば、どうすれば良いのか考え、自ら動くことが大切だと思います。

最後の振り返りの時、3日間お世話になった旅路の里の高崎恵子さんが「声にならない叫びに敏感になりたい」と言われました。日々の私たちの何気ない行いが「声にならない叫び」を生み

出す原因になっているかもしれないということを、どこまで意識して生活できているのか。PHD協会のめざす「共に生きる社会」を引き続き考えていきたいと思っています。冬に2回目を行います。興味のある方は是非お問い合わせください。（三輪望）

#### 日程

7月25日(金)  
20:00 JR新今宮駅西口改札前集合  
20:30 オリエンテーション

7月26日(土)  
4:30 起床  
5:00 あいりん労働福祉センター見学  
6:00 炊き出し準備 (三角公園)  
\*途中で旅路の里に戻り朝食  
11:00~13:30 炊き出し、配食手伝い  
\*昼食は炊き出し  
13:30~14:30 休憩  
14:30~16:00 釜ヶ崎の説明  
16:00~ この時点での振り返り  
18:30~ 夕食  
19:30~21:30 「野宿者ネットワーク」  
夜回り参加

7月27日(日)  
7:30 起床  
8:00 朝食  
9:00~10:00 ふるさとの家にてミサ参加  
10:30~12:00 振り返り  
12:30 解散

#### 参加者の報告

(報告書から)

釜ヶ崎に住むおじさんたちは、やむを得ない事情からいまの生活をしていて、それぞれ色々な過去や事情を持っていて、仲間といえども全てを話せる訳ではないし、理解できる訳でもない。心が穏やかになることはあるのだろうか？と考えてしまう。今回いろんな話もたくさん聞けて、憤りや多くの矛盾を感じたが、まだまだわからない所もたくさんある。今回感じたことを一人でも多くの人に伝えていきたい。（稲垣淑子）

釜ヶ崎に住む人々の笑顔を見たと同時に彼らの闇や孤独の部分にも触れたように思います。一人での寂しさや不安を持っていて、死というものに直面した際に、その恐怖みたいなものが、いつきにおしよせてくる様に思

います。誰もがきっと同じ感情を持っているんだろうけれど、釜ヶ崎に住む人々は、特にその恐怖が強いように思います。遺骨をふるさとの家においてほしいと希望する人のその時の感情や孤独死に間近で直面する機会の多い中、最期の瞬間を誰にも見てもらえないかもしれないという不安はものすごい大きいと思います。看護分野で学んでいるせいか、釜ヶ崎地域で「人が死ぬ」時の現状に特にひっかかりや衝撃を持ちました。と同時に自分が学んでいる分野で何ができるだろうかというのを感じました。その答えはいつもあるんだろうと思います。ゆっくりでもいいから見つけていきたいと思いました。

(前田沙恵里)

政府やメディアは釜ヶ崎はないものとして扱い、他の人々は無視を貫き通す。

そういう僕もPHD協会では無視を続けた。社会から無視され続けられた人はどうなるのだろうか？孤独は人を絶望のどん底に陥れ、街は死んでいく。その片鱗を釜ヶ崎に感じた。でもおっちゃんたちは負けていない。NPOの方々など様々な支援者の力を借り、おっちゃんたちは絶対に負けてない！僕はそんないろいろな顔を持つ釜ヶ崎をもっとみんなに知ってほしいと思う。（木下和磨）



振り返り



# 26期生研修生レポート

## ペリスマンさん

(インドネシア・27歳)

6月10日～27日

中野宗嗣さん

(兵庫県丹波市/米、野菜、酪農)

たんぼの なかのさんの

いんげんの せわとあいかもの

せわを しました せわしたまね

ぎ、ねぎ、ナス、ピーマン

トマト、きゅうり、なす、まめ

などの やさいとこめのハルヒ

ょうしました



中野さん宅で研修生が日本語研修直後にお世話になるのはここ数年ありませんでした。そのため言葉の面で少し心配をおかけしましたが、実際の農作業になると、これまでの経験を十分に発揮し、ペリスマンさんは作業をてきぱきこなしました。

丁度合鴨の雛を田んぼに放す時期だったため、水稻栽培で合鴨が果たす役割についても学ぶことができました。千葉から来ている二十歳の研修生には、一緒に作業をすることを通して、たくさんの日本語を教わりました。

7月3日～12日

寺田まさふみさん

(豊岡市/米、野菜、養鶏)

夏野菜の定植、収穫、そして販売を経験する機会となりました。村でも口にする野菜がほとんどですが、自給出来ずに、町で購入することが大半です。そのため作り方を知らない野菜もたくさんあります。これからの研修では、こうした野菜の栽培方法を学ぶことを課題としていく

ことになりそうです。

来日後の疲れからか途中で体調を崩してしまい、思うように研修を出来なかったところもありましたが、充分休養をとってこれからの研修に備えたいです。

よおかのこうたさんのいん

げにわりのえさのハルヒ

しました やさいにえさあげまし

た やさいのハルヒもまし

たのしかったです。

7月22日～30日

橋本慎司さん

(丹波市/米、野菜、養鶏)

短い日数でしたが、技術的な話をたくさん訊く機会がありました。

まだまだ日本語での表現には苦勞を伴う毎日ですが、鶏の餌の配合や肥料の各要素の効果など難しいこともよく理解しています。

今回は生産者・消費者のグループについても話を訊けたので、今後はこれらの点を更に詳しく学んでいくことが目標です。



## ボーボーハンさん

(ビルマ・25歳)

6月9日～24日

藤井誠次さん

(神戸市/野菜、養鶏)

事務所ではとても賑やかなボーボーさんですが、研修先ではやはり口数が少なくなってしまう、期間中ずっとおとなしかったそうです。

毎日、鶏の餌やりと水換え、卵の収穫を日課にし、夏野菜の栽培を手伝ったこ

とで新しい発見もありました。日本では茄子には支柱を使いますが、ビルマでは地面に這わせて育てるそうです。

こべし ぎたく、ふじいさんの はたけで べんぎょう しました。トマトと きゅうり と なすと きゅうりと さとひも と じゃがいもを べんぎょう しました。ハウス さいばいを べんぎょう しました。にわりの せわを べんぎょう しました。



6月30日～7月16日

牛尾武博さん

(市川町/米、野菜、養鶏)

いちかわちゃん うしおさんの は

げとたんぼとあいがもとゆう

きひょうを べんぎょう しまし

た。にわりの せわを べんぎょう しま

した。トマトと きゅうり と なすと オ

クラと さつまいもと さといもと

ピーマン と たらしと ごぼうと

ズッキーニ と かげぼうしを べん

ぎょう しました。

日本は おもしろい です。

研修初日、田植え直後の田んぼに見つけたのはカブトエビ。この後放鳥される合鴨とともに、それぞれの田んぼでの働きを聞きました。

日本語も随分上達し、牛尾さんからは「難しい農業用語も知っており、よく勉強する」と感想を頂きました。それは塩水を利用した種籾の選別方法や時期に応じたトマトの施肥の方法など、難しい話

もじっくり理解してきている点にも表れています。



7月24日～30日

大森昌也さん

(朝来市/米、野菜、養鶏、養豚、

パン焼き、バイオガス)

大森さん宅はいつも賑やかです。ちょうど同じ時期に居候農業体験を行っていた3人の日本人と共に過ごした1週間は、他の研修先とはちょっと違った

## 残念ながらスラデさん帰国

来日後1ヶ月は順調に日本語研修を行ってきましたが、5月半ばに本人から精神的にきつくなり、研修が手につかないとの申し出があり、事態改善のため6月3日に一時帰国をさせました。

6月19日当会職員が現地におもむき、本人、送り出し団体TKBCの代表サニーさんをまじえ、帰国後の経過を聞きました。彼が留守をする間に他の人に頼んでいた学生寮と幼稚園の運営が予定通りに資金が得られず、食べ物にも困っている状態であることをはじめ、村に残してきたもろもろへの心配が彼の気持ちを不安定にしていました。再来日の見込みを話し合いましたが、状況

改善には時間がかかり、再来日は難しいとの結論に至りました。研修がはじまったばかりで、本当に残念ですが、スラデさんの研修はそこまでとすることになりました。彼を迎え、ここまでお世話いただいた皆さまにご報告とともにお詫びを申し上げます。スラデさんからは、その後の経過について報告が届くことになっています。その後の村での生活改善の取り組みも期待します。



状況を説明するスラデさん。(左)

雰囲気だったはず。

今回は木酢液が印象に残ったようです。ビルマでも木酢液は売られていますが、この研修で教わるまで何から作られたものか知りませんでした。シンブジー

村でも炭は作られており、設備さえ整えば、木酢液も作ることが出来そうです。冬に木酢液の作り方を教わりたいと考えています。

## 研修先体験記

### 橋本慎司さん



7月末にペリスマンさんの研修指導をお願いした、丹波市市島町の橋本慎司さんにお話を伺いました。

### PHD協会との出会い

20年以上前に神戸三宮のベトナム料理店で、偶然背中合わせに座っていた職員の藤野さんと有機農業の話で意気投合しました。農業は大学時代から興味が有り、大阪・能勢の尾崎零さんのもとで手伝いながら覚えました。それまでの仕事を辞め、農業を本格的にはじめようと市島町役場の窓口に行き、断られました。「 TENT を張ってでもやる！」と根気強く訴えて、1反の田んぼと畑を得て農業を始めました。暗中模索のはじまりでしたが、PHD協会の研修指導者であった一色作郎さんより「研修生を受け入れないか」と紹

介を受け、ビルマのウィンさんを受け入れたのが92年のことでした。

### 有機農業のめざすもの

現在の農業は化学肥料、農薬をたくさん使い、環境を破壊してしまっています。人が増えさらに自然を壊していってしまう。有機農業は自然と人間のバランスを考えます。その実現のためには行政や農民だけでなく、消費者もそれに加わっていく必要があります。

有機農業は日本国内にとどまらず、国際有機農業運動連盟という組織もあり、世界的な動きです。PHD協会も無農薬、有機栽培で作られたインド産の綿を使ったTシャツを販売されていますが、それはとても意味があることだと思います。世界で使用されている農薬の1/4が綿花の栽培に使用されています。消費者がこういったことを気にすることによって世界の農薬を減らすことができます。

### 研修生たちに伝えたいこと

ひとつの方法を押し付けるのではなく、研修生を日本に招いていろいろ見てもらって、地域にあった農業を選び学んでもらうということに意味があると思います。日本でできているからといって、村のできるかわからない。その地域の条件に合わせて「やってやろう！」という積極的な意欲が大切だと思います。(談)



### ネパール・スタディツアーに参加し、 研修生選考に同席しました。

篠山ナマステ会 中西節

今回のスタディツアーの目的は、過去のネパールからの研修生の方たちとの交流を深めることと、久しぶりにネパールから受け入れる研修生を決めることでした。研修生の選考にあたっては、日本での研修後、自分の村に帰り、農業を通して村の平和と健康づくりに貢献することが重視されます。

研修生の選考は、第一期研修生バト・ピスタ氏が設立し、カブレの医療と健康や教育環境の整備等に取り組んでいるSSSの事務所で行われ、篠山ナマステ会のメンバーも同席しました。

はじめにPHD協会より、協会設立の趣旨と研修生を受け入れる事の意義についての説明があり、その後、インタビューシート記入と、それにもとづく個人面接が行われました。個人面接では、4名全員が自分の村の課題をしっかりと把握し、課題解決のための研修を日本



ピスタさん(左)と候補者たち

で受けたいと願う気持ちが伝わってきました。

翌日、結果発表の前に、応募者は誰も村をよくしたいという共通の目的を持ってこの選考に望んでもらっていること、したがって誰が選ばれようとお互いに協力して村づくりに励んでほしいといった趣旨の話があいだをつないだSSSの職員からありました。選ばれた21歳のピショ君は、来年4月に来日します。篠山を中心に、農業研修を1年間受けることになっています。まずは、彼が元気な姿で来日されることを願っています。

んできたのが22年前。今は大森家4人家族(第一子ケンタさん、第二子のげんさん、第三子のユキトさん(独身)は同じ村で家庭を持ち独立している)と全国から流れつた百姓体験を学ぶ居候が若干名住んで、それこそ縄文百姓を自称する自給自足生活が営まれている。砂糖・塩等の調味料以外は全てをまかなう驚異の営みの農家・あへす農場である。その一角に、“パン工房・くらんぼん”がある。パンを焼くのは、大森家の末娘双子のあいちゃんといれいちゃん、18歳のお嬢さんだ。パンづくりを正式に修行したことはない。父・兄から引き継いだパンづくりは週2回、全国の顧客の40〜50軒に配達する。ここのパンの特徴は、代々引き継がれ、日々育つ天然酵母を石釜で焼くスタイル、日本でも数軒しかないという。フランスに修行に行くパン焼き歴30余年の方がこの酵母を嗅ぎ味わって、「これはフランスやイタリアの家庭の味だ」と叫んだという。この酵母に“あへす農場”で出来た季節の果実がとりあわされる。自然の酵母菌ゆえに味噌汁・酒のつま

### ネパール ポカラより セーター入荷しました！

第2期研修生、ラダ・バンストーラさんと生徒さんたちが編んだジャケット、セーター、帽子、くつ下が入荷しました。ラダさんの指導のもと今は10人程のグループでセーターを編んでいます。中国から安い品物が入ってくるため、国内で作っても売るところが少ないそうです。

各地でひろくバザーで販売します。直接事務所にご注文いただくこともできます。

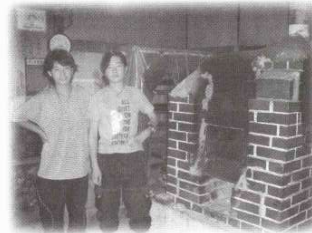
ジャケット	8,000円	
セーター	6,500円	
ベスト	4,000円	*価格は目安です。
帽子	2,000円	ものによって多少
くつ下	1,500円	異なります。



みに合うと言う。国内産小麦に自家製の米・卵・ジャガイモ・カボチャ等を使い、添加物を一切使わず、水も山の清水から生まれる“くらんぼん”の味を是非味わっていただきたい。

(坂井時和)

- ・グラハムパン、玄米パン、塩パン、田舎パン、季節パン(よもぎ、じゃがいも、かぼちゃ) 470g 600円
- ・ぶどらパン 400g 500円
- ・バターロールパン 60g×5 400円
- ・クッキー(山梨・梅・ごま) 150g 400円



### お問い合わせ先

〒669-5238  
兵庫県朝来市和田山町朝日767-2  
“地球の明日を考える”あへす農場  
電話・Fax: 079-675-2959

### 農林業プログラム

## 林業体験合宿 - 下草刈り



急な斜面での下草刈り

ことによります。

インドネシアの違法伐採による材木の輸入はずいぶん減ったそうですが、世界的には環境を省みない森林伐採と木材の取引はまだ大きな問題です。

二日目は合宿の目玉である下草刈り作業です。地元、大山振興会の方々の指導で進められます。この作業の目的は、植林されたばかりのまだ小さな松の苗木の周りの草を刈り取ることで、木の成長を助けることです。

今回は二時間ほどの作業でしたが、とても滑りやすい急な斜面で、参加者の顔にも疲れが見えました。

しかし苛酷な環境の下で行われるのが林業の実際であり、そうした作業を担い日本の林業を支えている人たちがいるのも現実です。

日本には優れた材質の木材を育てられる環境が整っています。にもかかわらず、輸入木材に押され日本産の木材は需要が伸びません。

いつの日か山は捨て去られ、一見

自然豊かに見える日本の山々も生物が住みにくい状態となってしまいました。

日本の山を守ること。それは日本の山に豊かな自然を取り戻すことであり、また同時に、海外で進行中の違法伐採や環境破壊を食い止めることにも繋がります。私たちの生活は海外とも密接に繋がっており、一人一人の小さな行動が大きな結果をもたらすことを、参加した皆さんには理解してもらえたことと感じます。

今冬には「枝打ち・間伐」作業を行います。また、新たな有志が集うことを願います。(高垣隆博)



勉強会

### 同じ買うなら、使うなら！



№612 パン工房 くらんぼん



毎月、PHD事務所へパンの定期便が届く。パンが籠に盛られると、その日訪れる訪問客・ボランティアさんの手が伸び、すぐ売り切れてしまう。送ってくださるのは、PHDと太く永いお付き合いの大森さん。

今回は、大森さん家のパン工房から焼きあがったパンを紹介します。

兵庫県但馬の山間を進むと築100年の建物が現れた。ここに大森家が移り住



### もったいないセールを行いました。

6月29日〜7月6日の8日間、神戸、元町通6丁目にあるフェアトレードショップ「みみずく舎」で、昨年引き続きカレンの草木染めの割引セール「もったいないセール2008」を開催しました。今回はお店の場所も分かりやすく、大変賑わいました。セール初日は、ソディのメンバーで店頭販売をし、PHDをご存知でない方も布についての説明を熱心に聞き入って購入して頂きました。これを機会に草木染めのファンが増えることが期待されます。



- 5月27日 神戸学院大学講義「援助と開発」
- 5月30日 大阪YWCA講座「国際関係開発論」(全5回)
- 6月10、17日 神戸大学発達科学部附属住吉中学校講演「フェアトレードについて」
- 6月10日 コープこうべ総代会参加
- 6月11日 名城大学講義「社会フィールドワーク」
- 6月11日 シルバーカレッジ「ボランティア報告会」
- 6月12、17日 龍谷大学講義「ボランティア入門講座」
- 6月25日 神戸大学アイセック「国際キャリアデザインセミナー」
- 6月27日 松原高校来所・授業「産業社会と人間」
- 6月29日〜7月6日 もったいないセール
- 7月2日 神戸海星女子学院大学講義「開発論」
- 7月3日 佛教大学インターンシップ事前研修会
- 7月4日 神戸大学国際文化学部JICA連携講座
- 7月5日 日本有機農業学会公開フォーラム「有機農業による途上国支援をめぐる」
- 7月5日 コープこうべ第三地区「平和を願うつどい」バザー
- 7月8日 阪神シニア・カレッジ講義「国際協力の基礎知識」
- 7月8日 コープ三田西コープ委員会ワークショップ「インドネシアの村から」
- 7月19日 ユースプラザKOBE・EAST フリーマーケット
- 7月19日 コープ相生「平和のつどい」バザー
- 7月20日 加東市連合婦人会報告会
- 7月26日 シルバーカレッジ夏祭り
- 7月22日〜31日 ネパール・スタディツアー
- 8月4日 春日中学校ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」
- 8月11、12日 「多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー」



# PHD NEWS

## ◆会費・ご寄附寄託状況

2008年 5月 34件	¥331,650
6月 360件	¥2,422,123
7月 320件	¥2,698,761
714件	¥5,452,534

以上の通り、皆様より多くのご浄財を頂戴しました。6、7月は会費のお願いにご協力をいただき、感謝申し上げます。今後とも引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## ◆農林業プログラム

### 「林業体験合宿 枝打ち」

本紙の別項で報告した林業体験合宿「下草刈り」に続き、冬には「枝打ち・間伐」作業を行います。この夏、好評だった合宿に参加し、私たちの生活と山の関係について考えてみませんか。

日程：11月～12月の土日

一泊二日予定

場所：兵庫県篠山市

内容：勉強会、枝打ち体験作業、  
研修生との交流会など

\* 詳細が決まり次第お知らせいたします。  
お問い合わせください。

## ◆東日本・西日本研修旅行

研修生の社会学習、リーダーシップ研修とともに、日頃お会いできない遠方にお住まいの皆様にも活動報告をするため、研修旅行に出掛けます。直接お会いしてPHD活動を紹介する場として、お知り合いの方にもお声掛けください。詳細はお問い合わせください。

### 東日本（11月中旬～下旬）

愛知-静岡-神奈川-東京-山梨-長野-岐阜

### 西日本（2009年1月中旬）

宮崎-鹿児島-熊本-大分-福岡-山口-広島-岡山

## ◆タイ・スタディツアー

年末年始のタイ・スタディツアー。毎年草木染めの布のグループと交流していますが、今年は事前に勉強会をし、日本でも応援している「ソディ」の活動にも参加します。フェアトレードを知る絶好の機会です。年末年始をタイの村で過ごしてみませんか？

日程 12月23日～2009年1月3日

事前説明会及び勉強会12月6日予定

金額 約20万円

（別途燃油チャージが加わります）

## 〇月×日のPHD協会

夏のできごと———。

職員 佐々木 人の数倍の汗をかく。洗濯の水道代、電気代、洗剤代、クリーニング屋の支払いと出費がかさむ。汗のもと、1割の紙パックのお茶代も。

職員 川原 お昼のお弁当のあとは、近くのコンビニでアイスキャンデー。これで、満足。百円で、しあわせになれるお得な人生。うらやましい。

職員 藤野 近所のうどん屋の大盛りが百円増に。そば屋は50円値上げ。久しぶりのラーメン屋は並で700円。自給率も考え、もっとお米を食べようか。

職員 高垣 部屋にゴキブリの気配。ホーサン団子の効き目を確認するため見つけても、その場は見逃す。決して飼っているわけではありません。

職員 三輪 ピアスの修理時、瞬間接着剤で両手の指がひっついて大慌て。救援の電話番号も押せず。箱に注意書きをみつけ、お湯につけ、危機脱出。

（遠くまで泳げない順）

## 編・集・後・記

前回のレター発送作業がこの前終わったと思っていたらもう108号の発送作業の時期がやってきた。この発送作業がPHD活動の中で意外と大事な時間であることを、皆様にご存知だろうか。2週間で延べ60名のボランティアが動員され、全国5500名の同志に新しいレターを送る。何も労力的なことを大変と云っているのではない。PHDを支えてくれる全国の同志に神戸のボランティアが「岩村マインド」を発信し、つながっている。象徴的時間だ。

作業は、まずレターをはじめとする印刷物を三つ折りにする。電池で。次に宛名シールを封筒にはる。そして封入。最後は封筒の糊づけ。洗濯糊を刷毛で。簡単なようだが5500部となると並大抵ではない。ただでさえ狭い事務所がこの時期は印刷物の山、ボランティアの熱気でムンムン。

単調な作業の繰り返しの中に百戦錬磨のボランティアさんの軽妙なトークが続く。誰かが持ってきた差し入れに手は伸びる。一員として参加する私はこの時間に多くのことを学ぶ。多くの市井の賢人に会おう。この楽しい貴重な時間にあなたも参加してみませんか。差し入れを持って。

（ボランティアS）

制作協力：増本一朗 坂井時和 カニ味噌

—再生紙を使用しています。

## ドクター岩村 ライブラリー

PHDの活動の提唱者、岩村昇先生はネパールの医療活動時から多くの著作を発表してきました。改めて先生の考え方を学び、PHDを理解するために、安平和彦理事より寄贈をうけ、事務所で閲覧できるようにしました。どうぞご利用下さい。

- 「山の上にある病院 ネパールに使いして」  
岩村昇・岩村史子著 新教出版社 1965年
- 「わがふるさとネパール ネパール通言2」  
岩村昇・岩村史子著 新教出版社 1970年
- 「ネパールの碧い空 草の根の人々と生きる医師の記録」  
岩村昇 講談社 1975年
- 「ヒマラヤから祖国へ 真のいのち、真の医療をとり戻すために」  
岩村昇 主婦の友社 1976年
- 「ネパールから祖国へ わたしの結核医療対策18年」  
岩村昇 大和山出版社 1980年
- 「共に生きるために アジアの医療と平和」  
岩村昇 新教出版社 1982年
- 「あなたの心の光を下さい アジア医療・平和活動の半生」  
岩村昇 佼成出版社 1985年
- 「友情の切手は、ヒマラヤのふもとへ ネパールの岩村昇博士」  
大西伝一郎・作、有原誠治・絵 文溪堂 1996年
- 「ネパールの「赤ひげ」は語る」  
岩村昇 岩波書店 1986年

絶版等により全著作が揃っていません。もしお手元にあり、お譲りいただけるものがありましたら、ありがたく存じます。